

令和 4 年度 大阪府文化事業（主な実績）

施策の 方向性	事業名	主な実績
A	大阪文化芸術 創出事業 (活動支援事業)	<p>【概要】 新型コロナウイルスの感染拡大により、舞台公演等の文化芸術活動に影響を受けているアーティストや文化芸術団体等の活動を支援するため、大阪市と連携し、公演や作品展示の実施にかかる施設使用料を補助する。(府：150,000 千円、市：150,000 千円)</p> <p>【実績】</p> <p>○申請件数・交付決定件数（府・市の予算を合計した実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通期（R4.7～12 の実施事業） 1,633 件・919 件 <ul style="list-style-type: none"> うち第 1 期（R4.7～8 の実施事業） 403 件・281 件 うち第 2 期（R4.9～10 の実施事業） 530 件・314 件 うち第 3 期（R4.11～12 の実施事業） 700 件・324 件 <p>○公演系では音楽、落語、演劇など、展示系では美術を中心に補助制度の利用が多く、コロナで影響を受けるプロの文化芸術活動を重点的に支援することができた。</p> <p>○利用者アンケートの結果では、制度の条件等について、約 8 割が「満足・やや満足」と回答しており、利用者満足度も高い結果となった。</p> <p>○緊急事態宣言やまん延防止措置の要請はなかったが、昨年度に引き続き厳しい状況での事業実施となる中、「補助により経費のバランスが取れた」「感染症対策の充実に回すことができた」「次回の公演開催の後押しとなった」との意見があり、文化芸術活動の継続・回復に寄与したものと考える。</p> <p>○また、昨年度のアンケート等により課題となっていた申請の募集期間を倍の約 1 か月としたことから、「余裕を持って申請をすることができた」といった声を多くいただき、より使い勝手のよい補助制度へとリニューアルすることができた。</p> <p>○さらに予算を増額し、事業実施期間を 2 か月単位の 2 期制から 3 期制に増やしたことにより、「対象期間が広くなりありがたかった」という喜びの声も多数いただいた。</p> <p>○なお、3 期を通して想定をはるかに上回る申請があったものの、昨年度から予算額を倍増したこと、周知が行き届き、比較的小規模な事業の申請が多かったこと等により、交付決定率も昨年度を上回る約 56%となった。(昨年度：約 50%)</p> <p>○コロナの状況は好転しているが、文化芸術事業の状況は昨年度同様回復途上にあることから、次年度も引き続き同様に支援を行う予定。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が第 5 類に移行される予定だが、まだ文化芸術業界は観客の戻りが完全でないため、厳しい状況に置かれている。その状況下において、次年度に 3 年目の支援が出来ることは、大阪の文化芸術関係者にとっては非常に大きな助けとなっている。継続した支援を出来ることを高く評価したい。 ・支援対象を登録された会場における施設使用料に絞ることにより、迅速な支援が可能となっている支援スキームであり、日本の文化芸術支援において、大阪が誇れるものであると考える。 ・抽選により支援事業者を決めることになる仕組みは仕方ないことではあるが、来年度より改良を加えようとしている姿勢を評価したい。
A	大阪文化芸術 創出事業 (公演機会の創出)	<p>【概要】 新型コロナウイルス感染症と共存しながら、文化芸術活動の回復に取り組むため、大阪ゆかりのアーティスト・演芸人や楽団等の公演・活動の場を創出するとともに、府民への鑑賞機会の提供を図る。</p> <p>【実績】</p> <p>○大阪文化芸術フェスと併せて「大阪文化芸術創出プログラム 2022」として実施。</p>

- ・公演機会創出事業：プログラム数：27 件、公演数：103 公演、
参加者数：51,070（いずれも共催プログラムを含む）
- ※来場者アンケートについては、現在集計中

<主なプログラム>

- ・上方歌舞伎役者と江戸歌舞伎役者が共演する歌舞伎公演
 - ・大阪で活躍するアーティストによる現代アート展やライブペインティング
 - ・「大槻能楽堂」で能楽とアコースティックライブを同時に楽しめるプログラム
 - ・大阪を拠点に活動する4つのオーケストラによるコンサート
 - ・大阪の落語家が一門の垣根を越えて出演する「大阪落語祭」
 - ・大阪で活躍するプロストリートダンサーやブレイクダンスのダンサーによる公演 ※R3年度中止
 - ・大阪を拠点に活躍する劇作家・演出家・俳優によるオムニバス演劇公演 など
- 新型コロナウイルス感染症対策を図りつつ、大阪市と連携し、音楽、美術、演芸、上方落語、伝統芸能など幅広い文化芸術分野における公演の機会を創出するとともに、多くの府民に文化芸術に触れる機会を提供した。
- 令和3年度から予算規模を拡大したことにより、より多くのアーティスト等に公演機会を創出することができた。また、昨年度、コロナにより開催中止となったダンス公演や、歌舞伎や声楽、能楽堂を活用した公演などの公演を実施する等、より幅広いジャンルの公演を開催することができた。
- 公演は無料もしくは安価な設定とする他、親子でオーケストラを楽しめるプログラムや、コロナ過でライブなどを生で楽しむことが難しかった学生向けの音楽プログラムを実施する等、より多くの府民に文化芸術に親しむ機会を提供した。
- 来場者アンケートでは、「子供と一緒に演奏を楽しめる機会はなかなか無いので、とても嬉しかった」「コロナで悲しい思いがたくさんあったが、楽しいなと思えた」などといった評価の声をいただいた。
- また、一部の公演では、府内の母子生活支援施設の児童、ウクライナからの避難民などを招待し、一流の文化芸術に触れる機会を提供した。
- 令和5年度以降は、令和7年度に開催される大阪・関西万博を好機と捉え、大阪が誇る多彩で豊かな文化の魅力を発信するため、事業規模を拡大し、府内のホールや大阪を象徴するエリア（大阪城・中之島エリア、万博記念公園等）において様々な文化芸術プログラムを実施し、大阪の文化芸術活動を活性化させるとともに、万博開催年での大規模な文化芸術祭典につなげ、さらなる都市魅力の向上を図る。

【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】

- ・昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症で影響を受けた文化芸術の支援を、本年度は2倍の予算で手厚く実施できたことを高く評価したい。
- ・新型コロナウイルス感染症に影響を受けた大阪ゆかりのアーティスト・演芸人や楽団員の公演・活動の場を創出することが目的に挙げられているが、出演の大半を占めているのはエンターテイメント色が強いアーティストや芸人であった。賑わい創出を中心として、普段文化芸術に敷居の高さを感じている客層に対して扉を開くという意味では、一定の成果を挙げていると評価できる。しかし、大阪の文化芸術を根強く支えてきたアーティストや団体がいることを認識して、プログラムや出演者の選定を行うことは必須である。
- ・出演するアーティストや団体だけに視点が向いているが、プロデューサー・マネージャー・コーディネーターなど、アートマネジメント人材などが参画する枠も検討してもらいたい。事業の企画段階から、行政、委託事業者だけでなく、各分野の専門家や地域の人材など多くの関係者が参画し、公共財としての文化芸術を守り継承し発展させる人材育成にも本事業で取り組むことを検討して欲しい。

		<p>・2025年の大阪・関西万博では日本のみならず海外からも注目を集める大阪である。その土地で育まれた豊かな大阪の文化芸術の本質的な素晴らしさや価値がより一層尊重されるだけでなく、それらは観光政策や都市政策の強靱な土台になるものである。一過性のイベントではなく、国際的に通用するアーティストや団体の活動を守り継承し発展させる役割を本事業が担っており、文化芸術がもたらす社会的な波及効果や経済の好循環に繋げる大きなビジョンを持って本事業のあり方を考える必要がある。</p>
A	大阪文化芸術創出事業 (文化芸術発信)	<p>【概要】 大阪が誇る上方伝統芸能や上方演芸をはじめ、音楽、演劇等、多彩で豊かな文化資源を活用した様々なプログラムを展開し、文化を核とした大阪の都市魅力を創造、発信する。</p> <p>【実績】</p> <p>○大阪文化芸術フェスと併せて「大阪文化芸術創出プログラム 2022」として実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪文化芸術フェス（主催）：プログラム数：6件 公演数：30公演 参加者数：30,940人 <p>※来場者アンケートについては、現在集計中</p> <p><主なプログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・EXPO PARK ART & MUSIC WEEKEND (万博記念公園全体を使ったアート展示や音楽などの複合的な文化芸術プログラム) ・府内各地の文化資源（神社や文化財など）を舞台とした公演（府内4か所） など <p>○新型コロナウイルス感染症対策を図りつつ、大阪が誇る上方伝統芸能や音楽、アートなど、多彩で豊かな大阪の文化の魅力を発信した。</p> <p>○万博記念公園の豊かな自然の中で、現代アートと音楽が融合した空間を堪能できる複合プログラムを開催した。もみじ川広場では、特設ステージで大阪ゆかりのミュージシャンによるステージ公演をはじめ、府内の高校生にも出演機会を提供した。また、音楽の流れる空間で「70年代遺産と現代のエネルギ」をテーマとしたライブペインティングを実施し、そこで制作された大型アートは、後日エノコにて展示した。</p> <p>○さらに、公園各所では大型アート作品、大阪府所蔵する20世紀美術コレクションの展示、大阪の伝統工芸品の制作体験ワークショップ、市町村とも連携した文化、観光PRブースの設置、公園内の庭園では弦楽四重奏や、書道ワークショップなど、多様なプログラムを公園全体を使い展開した。</p> <p>○文化資源を舞台とした伝統芸能や上方演芸、クラシック音楽などのプログラムを府内4か所（総持寺・茨木市、浜寺公園駅旧駅舎・堺市、亀瀬隧道・柏原市、太子和みの広場と万葉ホール・太子町）で開催。文化資源の魅力を広く発信できるよう、地元市町村や地元団体と連携し、文化の魅力を体験していただくイベントや、地域のイベント連動したイベントとすることで、より多くの方々に文化芸術に触れ楽しんで頂けるよう取り組んだ。</p> <p>例えば、総持寺では能勢人形浄瑠璃の公演を行うとともに、文化を身近に体験する機会を設けるため、人形操作を体験するワークショップを開催した。浜寺公園駅旧駅舎や太子和みの広場と万葉ホールでは、より多くの方に文化芸術や文化財の魅力を知っていただくため、堺市のイベント（紐解けば堺）や太子町の地元団体の主催するマルシェと同日開催し、集客力を強化した。また、亀瀬隧道では、隧道の魅力を深く知っていただくため、柏原市と連携し、特別な空間での公演に合わせ、地域の協力のもと、文化財等を紹介するツアーを実施した。</p> <p>○来年度以降、本事業は、地域の文化資源の魅力を向上させ、大阪・関西万博開催を見据え、来阪者を府内各地へ誘客するための取り組みとして、本年度の文化資源を舞台とした公演を大幅に拡充し、事業を実施する予定。</p>

		<p>○実施にあたっては、市町村等と連携し、日本遺産等を活用した文化芸術公演等を中心に、周辺も含めエリア一体の魅力を発信する複合的な文化芸術公演として実施するとともに、地域が自立的に文化芸術プログラムを行えるよう、ノウハウやネットワークの蓄積を図る。</p> <p>○なお、万博記念公園でのプログラムは、大阪・関西万博に向けて実施する「文化芸術活性化事業」として、大阪を象徴する他のエリア（大阪城・中之島エリア等）とともに、文化芸術の魅力を強力に発信する集中的な取組みとして実施し、都市魅力の向上を図る。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EXPO PARK ART & MUSIC WEEKEND では開催会場となった万博公園という開かれたスペース（公園への入場料は必要であるが）で行われる野外イベントという特性を活かし、文化芸術に気軽に触れることの出来るプログラムを中心に展開していた。大阪府 20 世紀美術コレクションやクラシック音楽イベントなど幅広い分野を網羅し、大阪の文化芸術の魅力発信と賑わいの両立がなされていたことを評価したい。また、各市町村との連携を行い各地域の様々な文化を紹介するブース設置や体験型ワークショップ企画などが準備されており、子どもから高齢者まで幅広い客層に魅力的なプログラムとなっていた。 ・ 総持寺で能勢人形浄瑠璃「鹿角座」を楽しむ会では、日本遺産に認定されている茨木市の総持寺において人形浄瑠璃公演を行い、会場の有形的な価値と実演芸術の無形的な価値を掛け合わせる取り組みは素晴らしい結果となった。また、子どもたちが人形体験をする体験コーナーが用意されており、観劇客が高齢者に偏りがちな伝統芸能公演においてファミリー層にも訴求する仕組みを取り入れたことを評価する。 ・ 経済資本のみならず文化的資本までもが大阪市内に集中してしまっているが、大阪市外にも有形・無形含めてたくさんの文化芸術資本が点在している。そのような魅力あふれるものを発信することはもちろんであるが、観光セクターとの協同により大阪内での周遊につなげ、文化芸術による経済の好循環を生む取り組みまで足を踏み入れていく必要がある。
A	大阪府芸術文化振興補助金	<p>【概要】</p> <p>子どもや青少年を中心とした府民に、優れた芸術文化の鑑賞機会などを提供し、芸術文化の振興を図るため、府内の芸術文化団体が行う活動に補助金を交付する。(上限 100 万円) ※大阪府文化振興基金を活用</p> <p>【実績】</p> <p>○令和 2 年度分 応募 36 件、採択 13 件 (追加) 応募 11 件、採択 5 件</p> <p>○令和 3 年度分 応募 46 件、採択 14 件 (新型コロナウイルス感染症の影響により、内定辞退や事業中止あり)</p> <p>○令和 4 年度分 応募 32 件、採択 13 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画配信のほか、3 年ぶりとなる対面での事業説明会を開催（説明会実績：15 件、内 11 件新規） ・ 個別相談会を開催（実績：11 件、内 9 件新規） ・ 年度当初採択事業者：13 団体 <p>○新型コロナウイルス感染症の感染対策をしつつ対面での事業説明会・個別相談会を開催し、多くの新規事業者に参加いただくことができた。補助金事業の周知が十分にできた。</p> <p>○また、来年度事業の実施に向け、新規応募者確保のため、広報物（パンフレット・ポスター）デザインを刷新した。パンフレット内で採択事業の一例を紹介することで、応募者に具体的な事業イメージを持っていただけるよう努めた。さらに、例年よりも早く事業周知を開始し、もずやん Twitter 等の SNS 発信も積極的に取り組んだ。</p> <p>○次年度は新規事業者が補助金事業内容を理解できるような手法を検討する。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 年ぶりとなる対面での事業説明会を開催し、その中で実施事業者による事例説明会を行ったことや、

		<p>募集パンフレットデザイン刷新により申請候補者に必要な情報の配置を変えるなど、広報面での積極的な取り組みを高く評価したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 採択審査会において事業者からの申請内容を確認している際には、様々な補助金や助成金の申請を通して申請書の書き方のコツを理解している事業者と、逆に全く申請書の書き方などのリテラシーが不足している事業者が散見される。それは必ずしも実施している事業の質が悪いということではない。しかし、公平性の観点から申請された書類によって審査をせざるを得ない。今後は本補助金事業の説明だけでなく、申請書類の書き方などの支援や不採択事業者へのフォローアップなどについても検討する必要がある。
A	半額鑑賞会	<p>【概要】</p> <p>優れた舞台芸能・芸術を通常の半額料金で鑑賞する機会を府民に提供し、芸能・芸術愛好家の裾野拡大を図る。(※府、(公社)日本演劇興行協会、(独法)日本芸術文化振興会の3者の共催事業として運営)</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和4年4・5月合併号、7・8月合併号、9月号、11月号、令和5年1・2月合併号、3月号の計6回計画どおり掲載した。 ○府政だよりへの掲載は予定どおり行った。府政だよりを見た府民からは多数の応募があったので、抽選により当選者を決定した。出演者の新型コロナウイルス感染症の罹患などにより、一部の公演が中止となったが、当選者には事務局(日本演劇興行協会)から返金対応を行った。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府外の専門文化機関と連携し、大阪の文化芸術の鑑賞機会の充実向上を、予算をかけずに実施できる制度の整った事業である。平成22年度より取り組んできたとのことで、今後も続けて欲しい。 ・少子高齢化に伴い、芸術愛好者も高齢層が増加するため、最新の電子機器に慣れていない高齢の府民でも平等に受け取れる紙媒体である「府政だより」や新聞広告などでの周知は、プラスに働いており評価できる。 ・現在でも東京、福岡、大阪の三都府県だけの取り組みであり、全国的にも貴重な取り組みであり、今後も継続して欲しい。
A	輝け！子どもパフォーマー事業補助金	<p>【概要】</p> <p>文化を通じた次世代育成を図るため、府内の子ども(おおむね6歳から20歳まで)が参加し発表する活動を実施する団体又は個人に対して補助金を交付する。(上限30万円)※大阪府文化振興基金を活用</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度分 応募24件、採択17件 (追加) 応募8件、採択4件 ○令和3年度分 応募29件、採択17件 (新型コロナウイルス感染症の影響により、内定辞退や事業中止あり) ○令和4年度分 応募33件、採択18件 <ul style="list-style-type: none"> ○動画配信のほか、3年ぶりとなる対面での事業説明会を開催(説明会実績:15件、内11件新規) ○個別相談会を開催(実績:11件、内9件新規) <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初採択事業者:18団体 ・採択後中止決定事業者:2団体 ○新型コロナウイルス感染症の感染対策をしつつ対面での事業説明会・個別相談会を開催し、多くの新規事業者に参加いただくことができた。補助金事業の周知が十分にできた。 ○また、来年度事業実施に向け、新規応募者確保のため、広報物(パンフレット・ポスター)デザインを刷新した。パンフレット内で採択事業の一例を紹介することで、応募者に具体的な事業イメージを持つ

		<p>ていただけるよう努めた。さらに、例年よりも早く事業周知を開始し、もずやん Twitter 等の SNS 発信も積極的に取り組んだ。</p> <p>○次年度は新規事業者が補助金事業内容を理解できるような手法を検討する。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に文化芸術活動を行うことについてのポテンシャルを理解できていない申請が多く、結果的に事業者が行うイベントに子どもの参加がある程度の申請内容が散見される。本補助金事業の周知はもちろんであるが、子どもが主体的に文化芸術活動を行うことがなぜ大切なのか？子どもたちがどう変わっていくのか？なぜそのような場所を確保しなければならないのか？などの本事業にある背景を積極的に伝える必要がある。 ・本事業は大阪府文化振興基金を財源として実施されているが、その基金が枯渇の危機にあり、本事業の継続が心配される。文化芸術を通じた子ども・青少年の成長する機会の提供は社会的な意義が非常に深い。別事業ではあるが基金に対する寄付の促進に繋がるような事業報告会などを、一般の方々や事業者の方々を行うことを検討して欲しい。
A	オーケストラハウスの管理	<p>【概要】</p> <p>オーケストラハウス（服部緑地内）について、計画的な修繕の実施等により、適切に維持管理を行う。また、日本センチュリー交響楽団の練習拠点として、オーケストラハウスの練習室の貸付等を行う。</p> <p>【実績】</p> <p>○オーケストラハウスの施設管理については、適宜補修などを行った。</p> <p>○下記のとおり、法律上必要な点検や施設運営に必要な修繕など、適切な施設管理を実施した。引き続き、施設を安全に利用できるよう補修工事等を行い、適切な管理に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補修工事等 <ul style="list-style-type: none"> ・空調用漏電遮断機取替修繕（5月） ・非常用照明機器等取替修繕（7月） ・空調の修理（8月） ・空調機の加湿装置修繕（11月） ・楽器庫の加湿器補修（12月） ・地下室の鉄扉取替修繕（1月） ・非常用照明設備補修工事（2月） ・屋根及び雨樋掃除作業（3月） ・定期点検 <ul style="list-style-type: none"> ・消防用設備機器点検（9月） ・建築基準法定期点検（8月） ・消防用設備総合点検（3月） <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラにとって練習拠点が確保されていることは大きなアドバンテージであり、芸術の水準を高めていく上でも、また地域住民や子ども達など幅広い層に成果を還元していく上でも重要な機能を担っている。 ・今後も本事業の良さを生かして、楽団が充実した音楽活動を続けられることにより、大阪の音楽文化に資する取り組みであることを期待したい。 ・施設の老朽化が進んでおり、今後も補修が必要な箇所が多くなってきている。修繕のみならずこの施設の今後の活用についても考えるタイミングであり、関係機関と調整・検討を行うこと。
A	メセナ自販機、OSAKA メセナ	<p>【概要】</p> <p>寄附型自販機（メセナ自販機、次世代育成型メセナ自販機）や寄附型クレジットカード（OSAKA メセナ</p>

	<p>カード、大阪府文化振興基金</p>	<p>カード)の普及促進、基金への寄附文化の機運を醸成する。</p> <p>【実績】</p> <p>○次世代育成型メセナ自動販売機の認知度向上と設置場所開拓のため、府立学校事務長幹事会で事業周知と設置案内を行った。</p> <p>○次年度より、新たに4施設(計5台)の次世代育成型メセナ自動販売機を設置予定である。</p> <p>○また、課の文化事業等で、基金リーフレットを配布するとともに、府HPを随時更新するなどPRに努めた。</p> <p>○なお、OSAKAメセナカードの提携施設の拡大を目指し、新規設立された府内文化施設(豊中文化市立文化芸術センター他3施設)に呼びかけを行った。</p> <p>○今年度から企業版ふるさと納税の対象となったが、この制度を通じ、3社(計30万円)から寄附があった。</p> <p>○今年度は、メセナ自動販売機規設事業を中心として基金獲得に取り組み、次世代育成型メセナ自動販売機の台数を増やすことができた。</p> <p>○企業版ふるさと納税のマッチング会は、エントリーしたものの応募多数で落選してしまったので、次年度はマッチング会に参加し、府外にも事業周知を図りたい。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度より新たに4施設(計5台)のメセナ自動販売機の設置予定や、企業版ふるさと納税の制度を通じて3社(約30万円)の寄附があるなど、着実に成果を挙げていることを評価したい。 ・メセナ自動販売機、次世代育成型メセナ自動販売機の認知度の向上、寄附文化の醸成のため、積極的な広報活動を行っている。 ・着実に成果を挙げている一方、大阪府文化振興基金から支出される額を上記の結果でカバーしきれていない現状があり、このままだと基金の枯渇が危惧される。 ・今までの取り組みを継続することはもちろんであるが、企業や個人に関わらず寄附者に対してより大きなメリットの提示を出来るような工夫(例えばネーミングライツ)を用いて、より一層の寄附文化の醸成に努めてもらいたい。 ・企業や個人が基金への寄附を通じて、大阪の文化芸術を支えている意識を持ってもらうことが重要である。そのためにも、寄附行為の奨励はもちろんであるが、その寄附がどのような形で大阪の文化芸術に還元されているのを、実例を持って紹介するなどの取り組みを図って欲しい。
<p>A</p>	<p>大阪文化再発見事業</p>	<p>【概要】</p> <p>府民に対する生涯学習講座等を実施する。(阪神奈公開講座フェスタ、おおさかふみんネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神奈公開講座フェスタ：府及び大阪、兵庫の大学・研究機関(20機関)でネットワークを組み、府県を超えた良質で高度な生涯学習機会の提供を行う。 ・おおさかふみんネット：府と府内市町村とのネットワークを構築し、生涯学習に関する情報交換及び広域的な学習機会の提供等の事業を行うことにより、生涯学習の総合的な推進を図る。 <p>【実績】</p> <p>[阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット]</p> <p>○講座数：18講座／受講者満足度：73.3％／参加者数：対面講座555人(※参加費：1講座500円)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響で、R3年度に引き続き大阪府新別館が使用できなかったことから、初めて咲洲庁舎内で開催。受講者間の間隔を確保するため、講座の最大定員を会場キャパシティの約6割ほどに制限して実施した。</p> <p>○初の咲洲庁舎での開催となり、市内中心部から遠いため集客を危惧していたが、結果としては一定数の申込者数及び参加者数を確保することができた。とはいえ、受講者の一部からは「会場が遠い」という不満もあり、その一方で大阪府新別館は令和5年度も使用できない可能性があるため、会場をどこにするかについては引き続き検討が必要な状況である。</p> <p>[ふみんネット]</p>

		<p>○市町村への情報共有回数：5回 (①「大阪府の文化施策の概要」の共有②「山片蟠桃賞贈呈式」のお知らせ③「公開講座フェスタ 2022」のお知らせ④「おおさかふみんネット大阪府・大阪市共催講座」のお知らせ⑤大阪狭山市「まちごとラボ」のお知らせ)</p> <p>○例年通り、大阪市との共催講座を実施。 (テーマ：「おおさか銭湯ザ・ワールド 銭湯の歴史・魅力・楽しみ方」 計2講座／参加費：無料)</p> <p>○参加者数：対面講座 延べ74人、動画視聴回数 現時点で延べ277回(3月14日12時時点／動画は3月20日まで期間限定公開としている。)</p> <p>○大阪府からは年度当初に市町村に対して大阪府が協力可能な事項(庁内施設の貸出・事業の共催案・広報協力案など)を示し、以降、定期的に情報提供も呼びかけたが、市町村からは情報提供1件(大阪狭山市)しか寄せられなかった。そのため、現在、市町村に対してアンケートを実施しながら、具体的にどのような情報交換をしたいのかについて調査しているところ。その結果をもとに今後情報交換を実施することで、府内市町村の生涯学習事業の活発化に繋がることを期待している。</p> <p>○なお、大阪府・大阪市共催講座については、受講者の満足度も高く、アンケートでは「大阪府市共催講座だからこそその魅力があるので今後も続けてもらいたい」という声なども寄せられているため、来年度以降も引き続き実施していきたい。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において高齢者の主体的な文化の学びの場が減少する中、座席数を制限はしたものの、対面講座を実施できたことは大きな成果である。実施会場が咲洲庁舎になったことにより、高齢者の方からの声があったとのことである。対面講座となるとその開催会場の立地はダイレクトに参加者数や満足度に反映されるため、来年度に向けて慎重に検討してもらいたい。 ・コロナ禍を経て全ての世代の方々にオンライン参加という選択肢がある状況になっている。また、大阪府民だけでなく遠方からの参加が可能となり、豊かな文化や芸術が育まれた大阪を知り学ぶ機会にもなりうるので、来年度以降に常時導入されることを願う。 ・昨年度の事業評価でも述べているが、広域自治体として補完性の原理に従い、文化振興の取り組みが難しい市町村に対しての支援としても本事業は機能していることを忘れて欲しい。2025年に行われる大阪・関西万博に向け、大阪府下の市町村に文化講座を届け、大阪の豊かな文化と芸術に対し誇りを持ちシビックプライドの醸成に繋げるような大きな展望を持って本事業に取り組んでもらいたい。
B	府庁本館活用事業	<p>【概要】 府庁本館等を文化芸術活動の場として提供し、府内で舞台芸術活動を行う団体の自主的な取組を促進する。</p> <p>【実績】</p> <p>○府庁本館活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3団体からの申し込みがあり、計2回実施。 ・第1回 特定非営利活動法人 関西芸術振興会・関西歌劇団 9月5日(月)12:20~12:50 関西歌劇団 Presents ランチタイムコンサート ～オペラ《偽の女庭師》によせて～ (府庁本館正面玄関ホール) 観客数：30人 ・第2回 一般社団法人全日本洋舞協会 11月7日(月)12:15~12:50 大前光市、宗本舞、マイノリティーダンサー達による Dream Performance (府庁本館正面玄関ホール) 観客数：25人 ・なお、他の1団体が府庁本館正面玄関ホールで事業実施をしたい旨申し込みがあったが、11月7日から正面玄関の開放が決定し、パフォーマンスに必要な室内の暗さが確保できなくなったため、実

		<p>施を見送ることとなった。</p> <p>○フェスパ次世代シアター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 団体から申し込みがあったが、スケジュールを調整する中で見送りとなった。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症対策防止のため、観客の人数を最大 30 人までに制限して開催した。 ・より多くの府民の方々に公演を鑑賞いただけるよう、公演の動画を撮影し、ダイジェスト版として文化課の YouTube で配信を行った。 ・事業の内容を伝わりやすくするため、ホームページをリニューアルし、過去の公演の写真掲載を行った。 <p>○公演の動画を YouTube で配信することについては、実施団体からも評判がよく、事業 PR にも繋がるので、次年度も引き続き継続していく。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館活用事業は、歴史ある大阪府庁の建物やより府市民に開かれた大阪府咲洲庁舎 1 階フェスパを文化活用することで、大阪府民の文化に関するシビックプライドを高めるとともに、行政職員が日々の職務の身近に文化を感じることができ大変な事業になっている。本年度に大阪府庁で行われた公演では、たまたま立ち寄った府議会議員の方が Twitter でこの公演について紹介して下さるなど、社会における文化芸術の役割を伝えることにまで貢献していると考えます。 ・会場写真や実際に実施された公演写真をホームページに掲載し、どんな事業なのかをイメージしやすくしている。また、YouTube を活用して公演の映像を公開することにより、本事業の周知だけでなく参加した事業者にとっても大きなメリットとなる可能性を見出したことを評価したい。 ・事業者にとっては普段活動行う施設とは違い、申請前に様々な確認が必要になる。今まで続けてきた中で共通の質問や懸念点などが蓄積されているのであれば、Q&A 集を作成しウェブサイト公開することを検討して欲しい。
<p>B</p>	<p>大阪文化賞・大阪文化祭賞</p>	<p>【概要】</p> <p>大阪の文化芸術に多大な貢献のあった方等を顕彰する。(大阪文化賞、大阪文化祭賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪文化賞：直近の 1 年間において、文化芸術の振興に著しい功績のあった方もしくは団体を顕彰する。 ・大阪文化祭賞：大阪の文化振興の機運を醸成することを目的として、大阪府内で行われた公演の中から優れた成果をあげたものに対して賞を贈呈する。 <p>【実績】</p> <p>○大阪文化賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年 9 月 推薦受付 推薦のあった方々の中から選考委員会の審議を経て決定 ・令和 5 年 3 月 26 日 贈呈式 ・受賞者：塩田 千春 (美術家) <p>○大阪文化祭賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年 1 月 1 日から令和 4 年 12 月 31 日までの間に府内で開催された公演を対象に審査 ・令和 5 年 3 月 13 日 贈呈式 ・受賞者 <ul style="list-style-type: none"> 大阪文化祭賞 (3 件) <ul style="list-style-type: none"> 第 1 部門 (伝統芸能・邦舞・邦楽) <ul style="list-style-type: none"> ・花柳與 「花柳與卒寿記念舞踊会一扇会」の舞台の成果 第 2 部門 (現代演劇・大衆芸能)

		<ul style="list-style-type: none"> ・桂あやめ 「40周年あやめの会」の成果 第3部門（洋舞・洋楽） ・奈良ゆみ 「祝祭の夜サティとフランス六人組」の成果 大阪文化祭奨励賞（6件） 第1部門（伝統芸能・邦舞・邦楽） ・成田奏 「調和会和のしらべ特別公演『道成寺』」の舞台の成果 ・吉田玉翔 「文楽若手会絵本太功記」の舞台の成果 第2部門（現代演劇・大衆芸能） ・桂吉坊 「吉坊ノ会」の高座の成果 ・劇団壱劇屋 「Supermarket!!!」の舞台の成果 第3部門（洋舞・洋楽） ・日本バレエ協会関西支部 「第48回バレエ芸術劇場『パキータ』・『フェアリードール』」の舞台の成果 ・前田妃奈 「関西フィルハーモニー管弦楽団第333回定期演奏会」の成果 ○受賞者から、今後の活動の励みになるという感想をいただいております、大阪の文化芸術を盛り上げる一助となっている。 ○大阪文化賞について、候補者の推薦件数を増やすよう、周知や依頼方法をさらに検討していく。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・どちらも長い歴史を持つ顕彰であるが、大阪府内で活躍する文化芸術の分野で優れた業績を挙げた人々を表彰することにより、地域文化の発展や文化芸術の振興を図るだけでなく、大阪の文化芸術の豊かさを証明するものとなっている。また、受賞者たちは、表彰によって大きな励みとなり、更なる芸術・文化活動の発展に繋がることが期待される。 ・HPでは過去の受賞者の情報を閲覧することは出来るが、基本的な活動情報や受賞理由が確認できるだけに留まっている。SNS運用などは労力と時間がかかるため現実的ではないかもしれない。近年では受賞者自身がSNSをしている場合が多いので、授賞式などの写真などは提供をして積極的にSNSなどで拡散をしてもらう働きかけや、ハッシュタグなどを統一して受賞者自身がこの賞のことを発信する仕掛けなども考えて欲しい。
B	山片蟠桃賞	<p>【概要】</p> <p>近世大阪の生んだ世界的町人学者である山片蟠桃の名にちなみ、日本文化の国際性を高めるためにふさわしい優秀な著作とその著者を顕彰する。（3年に1回）</p> <p>【実績】</p> <p>○第27回贈呈式・記念講演会（大阪府主催）</p> <p>受賞者：タイモン・スクリーチ</p> <p>日時：令和4年8月10日（水）13時30分～15時30分</p> <p>場所：大阪歴史博物館 4階講堂 ※参加者 170名</p> <p>内容：賞の贈呈 山口副知事</p> <p>受賞記念講演 タイモン・スクリーチ氏「東海道を歩んだ西洋人:大坂経由で長崎から江戸へ」</p> <p>○受賞者記念講演会（大学主催など）</p> <p>（1）主催：兵庫県立美術館</p> <p>日時：令和4年10月16日（日）14時～</p> <p>場所：兵庫県立美術館 ミュージアムホール ※定員 110名</p> <p>内容：ボストン美術館所蔵刀剣×浮世絵 THEHEROES 関連イベント「浮世に浮かぶものは何か」</p>

		<p>(2) 主催：公立大学法人大阪 日時：令和 5 年 2 月 14 日（火）14 時～16 時 40 分 場所：大阪公立大学杉本キャンパス 1 号館 140 周年記念講堂 ※定員 120 名 内容：山片蟠桃賞受賞者記念講演会近世日本文化に潜む日欧交流の軌跡／私の日本文化研究の軌跡</p> <p>○コロナ禍での実施となったが、感染対策を講じた上で「贈呈式・記念講演会」を実施することができた。府民からの申込者も予定数に達し、本講演を通じて、日本文化に触れていただくことができた。</p> <p>○さらに、美術館や大学機関協力のもと、一般向けの講演会を開催し、「山片蟠桃賞」の知名度向上を図るとともに、府民の文化に触れる機会の創出や生涯学習の機会の提供につながった。</p> <p>○スケジュールについては、事業期間全体（3 年）を通じて進めていく。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が誇る国際的な文化賞を大阪が行っており、なおかつ長い歴史が築かれていることは大阪にとって大きな資産である。本年度より選考委員の入れ替えが行われたが、以前と同様に安定した運営をすることが出来たことを評価したい。 ・授賞式後の講演のみならず、美術館や大学の協力のもと、一般の方々や学生に向けた講演会を実施出来たことは、受賞者の功績をより多くの方々に認識してもらうと同時に、「山片蟠桃賞」の知名度の向上にも寄与している。 ・近世大阪が生んだ世界的町人学者である山片蟠桃の名にちなんだ国際文化賞であるが、山片蟠桃を知らない方々もまだまだ多い。「山片蟠桃賞」だけでなく、山片蟠桃の生涯、思想、著書やその功績についても情報発信なども検討して欲しい。
<p>B</p>	<p>大阪府アーティスト情報発信事業（バンク）</p>	<p>【概要】 アーティストの情報を広く府民に紹介し、地域や学校における府民の自主的な活動のサポート（申し出があったアーティストの情報を随時登録）</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新規登録件数：個人 16 件、団体 3 件 ○変更登録件数：個人 3 件、団体 1 件 ○全登録者数：個人 78 件、団体 80 件 <p>○登録希望者からの申請があるたびに、府ホームページの更新を行うことで、常に最新の情報が掲載されている状態を維持した。</p> <p>○また、写真の掲載について積極的に依頼し、府民が見やすいページを作成した。</p> <p>○その結果、新規登録者数が増加傾向にあり、ホームページのメンテナンス効果は一定みられる。</p> <p>○今後も定期的なメンテナンスを行い、府民が活用しやすいように情報提供する。</p> <p>○府庁本館活用事業の出演団体募集等、府が行う文化事業の情報提供を行うことで、アーティスト活動の機会の創出を行った。</p> <p>○次年度も、府が行う文化事業の情報提供等を行い、アーティストの活動支援を継続する。</p> <p>○アーティストバンク申請登録フォームを見なおし、より申請しやすいフォームを作成した。</p> <p>○また、新規項目として作成した「登録のきっかけ」の回答を参考に、次年度は、アーティストバンクの周知方法について検討する。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では予算が無い中で行う事業であり、大阪府ウェブサイト上に設置され魅力的なアーティストバンクとは言い難い。しかし、こまめに登録者に連絡をして、写真や掲載内容のアップデートを行っており、限られたリソースの中で丁寧な運営をしていることを評価する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・アーティストや団体に対して本アーティストバンクの登録を促す際には、そのメリットをどう見せるかがこの事業の発展に繋がると考える。例えば大阪府における文化芸術に関する支援の情報などをいち早く登録者に送るなど。実施自治体にしか出来ないような取り組みは、孤立しがちなアーティストや小・中規模団体にとって大きな安心感となる。 ・アーティストや団体が自身のプロフィールにこの事業に登録していることをどう表記するのか？SNSではどのようなハッシュタグをつけるべきか？など実施する側がそれを取り決め活用を促すことにより、このアーティストバンクの周知をすることが可能であるので、ぜひ実践をして欲しい。
B	上方演芸資料館(ワッハ上方)管理運営事業	<p>【概要】 全国で唯一の演芸資料館として、資料等の収集・保存・展示等の取組を通して、上方演芸の保存及び振興を図るとともに、府民に上方演芸に親しむ場を提供する。</p> <p>【実績】</p> <p>○収蔵資料を活用した展示を以下のとおり実施【年3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展示「蔵出し名品展」(令和4年4月12日～9月30日) ・企画展示「イラストで振り返る上方演芸殿堂入り名人展」(令和4年10月12日～3月12日) ・常設展示「大阪弁から見る上方演芸」(通年)※8行入替え実施 <p>○ワークショップ等の上方演芸の魅力を伝えるイベントや講演等の開催【月平均6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1・第3土曜日に体験型講習会(ワークショップ)を開催(R4年5月7日～2月18日 30回) ・有識者による上方演芸講習会を開催(令和4年9月17日～令和5年3月4日 4回) ・在阪放送局とのコラボ企画事業を開催「爆笑!天国寄席」(令和4年11月19日～20日 2回) ・毎月第2・第4土曜日にアマチュア演芸団体と共催事業を開催(令和4年4月16日～3月9日 34回)※3/11、3/25開催予定(2回) ・大阪文化芸術創出プログラム2022と連携し、万博記念公園で体験型講習会(ワークショップ)を開催(令和4年10月30日～31日 2回) <p>○SNS等を活用した情報発信【1月末現在 年347回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS(ツイッター、インスタグラム、フェイスブック)を活用し、随時情報発信(休館日を除き、1日1回以上) <p>○第25回上方演芸の殿堂入り名人表彰式の開催(令和4年7月14日・大阪府公館)</p> <p>○インターンシップ受入れ(令和4年9月5日～9月16日 1名)</p> <p>○上方演芸の魅力を伝えるため、企画展示、常設展示を実施した。また、体験型講習会及びアマチュア演芸団体による実演会を実施し、ワークショップにおいては、夏・冬休み期間のイベント月間には、子どもや家族向けの内容にするなど、若い世代を対象にして開催した。また、子どもたちへ上方演芸に触れる機会を提供するため、同休み期間に合わせて、展示資料を活用したクイズラリーを開催するなど、新たな試みにも取り組み、多くの子どもたちが参加した。その他、大阪文化芸術創出プログラム2022と連携した万博記念公園でのワークショップでも、子どもや家族を対象に内容を企画し、約450名の方に上方演芸の魅力を伝えることができた。収蔵資料を活用した有識者による講演会や在阪放送局とのコラボ企画も開催し、いずれも多くの方に参加いただき好評を得た。</p> <p>○大学との連携事業として、インターンシップ生を1名迎え、ワッハ上方及び咲洲収蔵庫にて業務を体験してもらった。事前の事業PRや、インターンシップ生による学内での報告会を通じて、若い世代の方にも当館の事業内容や役割を伝えるよい機会となった。</p> <p>○また、SNSの発信内容については、タイムリーな内容や話題性のある内容を盛り込むなど工夫し、随時情報発信した。さらに、団体来館者を取り込むため、SNSを活用した発信をするなど、来館者増や資料館の周知にも取り組んだ。</p> <p>○来館者へのサービス向上として、館内で上映している番組名・出演者等を記載したキャプションの掲出や展示資料の一覧を作成し配布した。また、来館者の満足度向上や来館者増に向けて、ワークショップ</p>

		<p>参加者でアンケートを記載いただいた方や事前申し込みいただいた団体来館者に対して、オリジナルグッズを制作し、配布した。</p> <p>○次年度に向けては、リーフレットのデザインの見直しや大学の落語研究会との共催事業の実施により、館の認知度向上や若い世代の来館に向けて取り組む。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上方演芸資料館(ワッハ上方)は全国で唯一の演芸資料館であるが、それと同時に大阪の文化や歴史の資料の宝庫であり、大阪人の文化的な誇りを育む重要な文化拠点である。施設や専門人材も限りがある中、丁寧な管理運営をしていることを高く評価したい。 ・収蔵資料を活用した企画展示などに加えて、上方演芸も魅力を伝えるワークショップやトークイベントなどをかなりの回数実施しており、行政直轄管理の文化施設とは思えないほど活発な活動をしている。 ・SNS等を活用した情報発信では展示、イベント、ワークショップなどの情報はもちろんではあるが、演芸人の誕生日や命日などコアなファンにも楽しめる幅広い内容をカバーしていることを評価したい。今後は同ビル5階の漫才劇場からの若年層の流動を狙った情報発信などの工夫を行い、新しい客層への訴求に挑戦して欲しい。 ・在阪企業との連携により新人研修やリスクリング研修の一環として本資料館との提携プログラムを開発し、大阪における笑いの文化を理解し大阪愛を育てる取り組みなどを考えてみてはどうか。公共にしか出来ない大阪らしい取り組みなども検討して欲しい。
C	<p>江之子島文化芸術創造センター(enoco)管理運営事業</p>	<p>【概要】</p> <p>アーティスト等が交流・連携・協働する拠点としての機能を強化し、文化芸術の創造及び振興を図るとともに、府所蔵美術作品の管理・活用や次世代の担い手の育成にも取り組む。</p> <p>【実績】</p> <p>○実績値(1月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者数(延べ): 72,527人 ・文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ人数: 529件 ・enocoとの創造的活動を協働した個人・団体等の数: 61件 ・所蔵作品活用点数: 885点以上/年 ・企画展: 2回 ・貸館利用率<多目的ルーム1~4(展示室)>: 72.3% ・<多目的ルーム5~12(展示室以外)>: 60.9% ・音楽イベントにおいて、FM COCOLOと告知を連携。ラジオ番組、ラジオスポット、HPで告知し、30名の定員に対して応募総数が416名あり、これまでenocoに関りがなかった層にenocoを認知してもらえらる機会となった。 <p>○センターの機能が発揮できるよう、指定管理者と定期的に打合せを行い、事業計画の推進に取り組み、企画展示やワークショップ等を開催した。また、文化芸術に関心のない人にも広く関心を持っていただくため、新たに、音楽イベントや他部局・他事業との連携したenoco出張ワークショップや府政学習会に指定管理者と共同して取り組んだ。</p> <p>○来年度は、今年度発生したenoco情報紙の誤字防止などについて、指定管理者と文化課でコミュニケーションを密にとりながら、各種事業に取り組んでいく。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度から新しい指定管理者の運営に切り替わったが、運営スタッフや専門人材を揃え運営体制を整えるまで時間がかかり、大阪の美術関係者から心配の声が聞かれることとなった。限られた予算の中で求められる業務が多いことは理解するが、安定かつ効率的な運営体制を築く必要がある。 ・名誉館長である立川直樹氏の強みを活かした音楽分野の芸術とのコラボレーションでは、今までenoco

		<p>に足を運んだことのない方々の興味を誘うものとなったことは大きな成果と言える。しかし、大阪における現代美術を支えてきたアーティストやマネジメント人材、そして以前の指定管理者が 10 年かけてきたネットワークが上手く活用されていない状況は大きな課題であると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府 20 世紀美術コレクションの活用強化については過去の事業評価でも度々指摘されているが、コレクション活用の根本的な課題である作品劣化への修繕等の取り組みに関しても危機感を持ってもらいたい。所蔵作品の中には日本のみならず世界のアートシーンで再注目されている作品もあり、今後は海外への貸し出しなども視野に入れられる可能性がある。そのような価値ある大阪の資産であり続けるには、作品修繕は必要不可欠である。 ・すでに述べたとおり限られた予算の中で課せられる責務は非常に厳しいものではあるが、大阪における唯一のアートセンターであることを認識して欲しい。指定管理者の企業体内で事業を完結させることなく、大阪のアーティストやアートマネジメント人材を新たに掘り起こし、一民間企業の成果ではなく公共事業として大阪の文化芸術の創造環境を下支えする事業を展開する必要がある。
C	府内市町村との連携	<p>【概要】 府内市町村に対する様々な情報の提供、文化行政担当者間における意見交換や府内での先進事例の共有、市町村と連携した文化芸術事業の実施など</p> <p>【実績】</p> <p>○令和 4 年 5 月に府内市町村文化行政主管課長会議を開催し、下記内容について情報や課題の共有を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁地域文化創生本部の取組等について ・府文化事業の紹介及び協力の呼びかけ(創出事業(文フェス・公演機会創出・活動助成)、ワッハ上方、enoco) ・大阪アーツカウンシルの取り組みの紹介 ・府内市町村における事例の紹介(堺アーツカウンシル(堺市)) <p>○令和 4 年 12 月に府内市町村における取組み事例集を取りまとめ、共有を行った。</p> <p>○府内市町村文化行政主管課長会議の開催を通じて、文化庁地域文化創生本部の取組み紹介や、府事業、大阪アーツカウンシルの取組み、市町村における事例について情報交換の場を設けることができた。</p> <p>○また、府内市町村間の円滑な連絡体制の整備のため、各市町村の担当者連絡名簿を作成し、市町村へ共有を行った。</p> <p>○府内各市町村の文化事業を取りまとめた事例集を作成し共有することで、府内市町村間における連携を推進するとともに、市町村が実施する文化事業の計画性や質の底上げに貢献した。</p> <p>○次年度は、参加市町村数をさらに増やし、より多くの市町村と情報共有・連携の促進に努めるとともに、府内市町村における取組み事例集の継続作成・活用について検討する。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府内各市町村の文化事業をとりまとめた事例集を作成して共有することは、各市町村同士の連携を強化すると同時に、大阪府内における文化事業の状況・強み・弱みなどが分かる貴重な基礎調査資料である。公開できる情報とそうでないものがあるため編集が必要になるが、様々な分野の研究や調査に活用してもらえるように一般にも公開することを検討して欲しい。 ・定期的に入れ替わりが発生する行政の職場であり、必ずしも全ての職員が公共財としての文化芸術の理解や、公共事業としての文化芸術、地域社会における文化芸術の在り方などの知識を備えているわけではない。特に、大阪・関西万博や大阪 IR に向けて大阪の文化芸術の魅力を最大限にアピールするチャンスを迎えており、大阪全域における文化芸術のリソースやそれらの捉え方、活用方法について共通認識を図ることが急務である。広域自治体である大阪府が本事業を通して、それらの点を補完できることを願う。